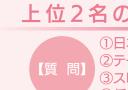
今年は5つの国と地域出身の8名の皆さんが、2月19日にスピーチをしました。 どの出場者も日本語が上手で、テーマや内容も面白くハイレベルであった為、各 賞の選考は難航しました。最後の講評で、審査委員長の関口明子さんが言われた 「スピーチコンテストにおいて、上手に話すことよりも話の聞きやすさ、惹き込まれ る話し方が重要」という言葉が印象的でした。出身も文化や慣習も違う皆さんの スピーチを聞いて、国際交流とは何か、改めて考えさせられる機会となりました。

> 司会のブランシャル・リナさん(左、ロシア出身)と塚島クレアさん(右、アメリカ出身) 2人は川崎市国際交流協会の日本語講座で勉強中!





上位2名の受賞者ヘインタビュー

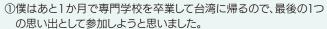
①日本語スピーチコンテストに参加した理由 ②テーマを選んだ理由と伝えたかったこと

③スピーチをした感想

④将来の夢や今後の目標について

凱迪 さん【台湾出身】

納豆に教わったこと



- ②15年前に家族旅行で来日した時は、納豆が大嫌いでした。留学で来 日し、経済的な理由から再び食べてみたら好きになりました。また、 健康食なので助かりました。嫌いな方に、もっと納豆の可能性を知っ てほしいです。何かと組み合わせて食べたりして、好きになってほし いです。台湾に帰ったら食べる機会もなかなか無いので、この素晴ら しさを伝えるべく「納豆」にしました。
- ③やっぱり納豆への感謝の気持ちを伝えられたことに感謝しかないで す(笑)!こんなに美味しさと健康のバランスのある食べ物ってなか なかありません。
- Q. 日本で一番好きな食べ物は? 納豆!…ではなく、魚介の「つけめん」です(笑)。これは台湾にはあり ません。
- ④食品ロスの問題を解決するシステムや会社をつくりたいです。食べ ることが大好きなので、捨てられちゃうのがとても悲しいんです。

川崎商工会議所会頭賞

ヘリヤニ エステリナ ハック さん 【インドネシア出身】

「自分のペースで人生を旅しよう

- ①日本語で伝えることが得意ではなかったこともあり、上手く話せる ようになりたいという思いで参加しました。先生もスピーチコンテス トへの参加を応援してくださいました。
- ②国際結婚や日本語学校で経験してきたことを通して、私が感じたこ と学んだことを伝えたくて決めました。もともと心理学を勉強してい たこともあり、苦労した経験を自己分析して、自分なりの正解を見つ けました。それは、1. 他人と比較しないこと。2. 無理をしすぎないこ と。3. 自分の弱さを受け入れることです。この3つを伝えられるス ピーチにしました。
- ③満足のいくスピーチができました!夫や友人、多くの方々に自分の思 いを伝えることができて、大変嬉しかったです。
- ④あたりまえのことかもしれませんが、日本で生活していく中で、色々 なことに努力し、学び続けたいです。そして、バランスのとれた生活を 送ることも目標の一つです。



川崎ライオンズクラブ優秀賞 趙 珂【中国出身】

「会ったことがない日本人の友達」



川崎市国際交流協会優秀賞 スシヤマラ メディセッティ 【インド出身】 「インドの音楽」



川崎ライオンズクラブ特別賞 黄 千喩 【中国出身】 「食文化を通じた国際交流」



川崎市国際交流協会特別賞 カフレ サラスワティ 【ネパール出身】

「日本に来てからの生活」



張 璇【中国出身】 「よし、監督!|



審查委員特別賞 李 夢迎 【中国出身】 「私の視点から見た中日文化の違い」

スピーチを聞いて、取材して

ユニークなスピーチで会場を湧かしてくれた張さん。食わず嫌いをせ ず、別のアプローチから試してみる、その姿勢が聞き手に想像力を与え る素晴らしいスピーチでした。受賞後のスピーチでは「日本に出会えて 良かった!]と涙ぐまれて、私もつられて泣いてしまいました(笑)。インタ ビュー中は終始明るくて、とてもコミュニケーションが上手な方でした。

(取材・文:編集ボランティア 二村真梨絵)

ヘリヤニさんや出場者の皆さんが、それぞれの思いを日本語にのせて 話す姿に、心を動かされました。きっと、コンテストを迎えるまでに葛藤 することもあったと思います。それを乗り越えて、日本語を駆使して表現 豊かに発表している皆さんのスピーチは素晴らしかったです。ありがとう (取材・文:編集ボランティア 柳明里) ございました。

(写真:編集ボランティア 安田芳郎/編集:川崎市国際交流協会 加藤恵美)